

E-7 住居学のあり方についての研究(その1) — 米国における "Home Economics" の範囲と方向 — 阪市大家政 藤原, 勝田, 上林

目的 1969年、旧来家政学の分野で最も権威のある大学の1つであるニューヨーク州立Cornell Univ.において学部及び学科の改革が行なわれた。学部長はHome EconomicsからHuman Ecologyに、住居学科は被服学科と合併し(おしる学科目編成上は吸収というべきであろう)、<sup>1)2)</sup>新しく学科名としてDesign and Environmental Analysisを採用した。このような情勢において住居学のあり方を再検討するにあたり、その第一段階として米国におけるHome Economicsに関する学部が今後どのように変わっていくかということ把握しようとした。

方法 米国の四年制の大学中家政学に関する学部又は学科を有するものに対し、七つの項目にわたってアンケート調査を行なった。

結果 学部長の改革については、今なお総称科学名としてのHome Economicsを採用している大学が大部分である。しかし現在行なわれていいる教育、研究の内容及びその将来の発展指向は、現在のいわゆる「家政学」の範囲を明らかに、逸脱して社会性を大いに持ち新しい改革を示している。

参考文献 1) 矢部章彦, アメリカにおける家政学の動き, 「家政学雑誌」Vol. 20, No. 5, 1969.

2) 山田郁一, アメリカの家政学の変貌, 「繊維製品消費科学」Vol. 11, No. 9, 1970. & Vol. 12, No. 10, 1971.